

HKFA Technical Report

2016 全道少年少女選抜大会

開催日時

平成28年8月3日～5日

会場

十勝管内池田町

河川パークサッカー場

報告者

尾見 秀樹(U-12責任者)

西村 祐紀(U-12部員)

1 事業の概要

2016年、8月3日(水)～5日(金)に十勝管内池田町で開催されたこの大会には、全道15地区のU-12トレセン(札幌地区は2チーム)が集まった。

1日目は各地区の対抗戦(予選リーグ)、2日目は5ブロック(札幌・道央・道南・道東・道北)対抗戦、最終日の3日目は各地区に戻り順位決定戦を行った。日差しが強く、暑い中での試合となったが、選手のプレーはとてもし生懸命で輝いたものになっていた。



2 On The Pitchに関して

年々、各地区の差が縮まってきて、北海道全体の底上げが図られていることが実感できた。今年のゲームの特徴は得点力アップが挙げられる。0対0で終わるといった試合はほとんどなかった。昨年度のテクニカルレポートで、①守備のポジショニング、②ボールを失わずにゴールを目指す、③フィニッシュの精度の3点を課題に挙げたが、フィニッシュの部分で各地区トレーニングを積み重ねた成果が出たと感じる。逆に、守備の面で課題となる部分がいくつかあった。

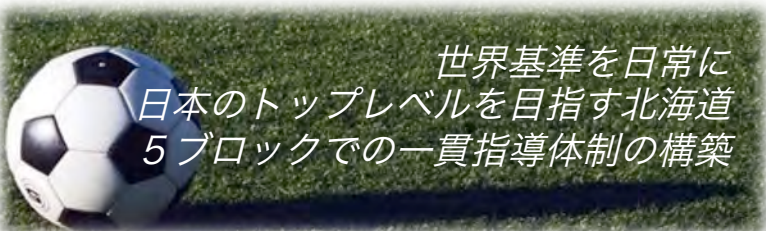
① 1stDFの寄せの甘さ

1stDFの寄せの甘さが目立っていた。

「行っているフリ！」一人一人一生懸命に守備をしようとする意識はあるが、ボールホルダーは、それほどプレッシャーを感じていない、また余裕を持ってボールを保持したりパスをしたり判断できている場面が多く見られた。

② 守備のポジショニング

これも1stDFの寄せと同様、昨年度から継続して課題となっている部分である。1stDFが寄せできていないので予測しきれないということもあるが、相手



世界基準を日常に
日本のトップレベルを目指す北海道
5ブロックで一貫指導体制の構築

の立ち位置やボールホルダーの状況、1stDFのアプローチの強さや角度によって、2ndDFは立ち位置を変えられる選手が少なかった。



守備については、1日目の全体指導者研修会でも触れ、「個人戦術が重なり合ってグループの守備になる」ということが話された。個人戦術の理解が大切である。

守備が緩いから得点力がアップしたのか？今大会を見る限り、決してそうではないと考える。ゴールへの意識や決定力は昨年より上がっていた。北海道U-12年代の攻撃力は増したが、今度はそれを抑えるための守備力の強化が課題である。その指導のバランスを、各地区トレセンで勘案してもらいたい。

「まずは行かせる！」「1対1の強さ」そこからスタートし、上記の課題を克服していければと考える。

③アクションを起こす

攻撃面では、昨年度の課題であった「ボールを失わずにゴールを目指す」ということを意識しながらプレーをする地区が多かった。さらに次のステップとして、「自分からアクションを起こす」ということを課題として挙げたい。出されたボールに対応できる（リアクションで動くプレー）選手は増えてきたが、ボール状況に応じて立ち位置を変化させ、その中で自分から動きだし（アクション）、ボールを引き出せる選手が多く出てきてほしい。そのためには、オンの選手もオフの選手も周りを観る、観ておくが重要なので、引き続き指導していきたい。



攻撃に関しては、ポゼッションやアクション、幅と厚みの意識など戦術に対しての指導が各地区で実践され成果を上げている。しかし、再度「個」に目を向け、ボールコントロールの質、体の向き、パスの質、ヘディング、観るなどの基本的な技術となる部分をしっかりと指導し、この年代から習得させたい。



3 Off The Pitchについて

生活面に関してもいくつか意識して取り組まなければならないと感じる部分があった。

①食事について

意識して食事を取っている選手はそれほど多くなかったように感じた。バイキングなので、選手各自でメニューを選んでいたが、中にはコーラやメロンソーダを飲んでいる選手もいた。量やバランスを指導者がしっかり把握して指導していく必要があると感じた。

②公共施設の利用について

近年なかったが、今年度は宿舎（ホテル）の浴室で他のお客さんに指導された選手がいた。食事もそうであるが、遠征のみでの指導は難しい。日頃から継続して指導し、意識付けしていきたい。

③熱中症予防について

今年の大会期間中も十勝は30度を超える真夏日であったが、1日目に熱中症についてのレクチャーを選手にしていたので、症状を訴える選手はほとんどいなかった。指導者はもちろん、選手自身も知識を入れ、自分でも予防に努めることができるようにしていきたい。



4 まとめ

毎年各地区のスタッフが一堂に会し、情報の共有や議論を重ね、大変有意義なこの大会は、年々レベルアップしていると感じる。今年はGKの質の向上と女子選手のレベルの向上も目立った。女子選手は前年度4名だったのに対し今回は7名の参加があり、男子選手と活動していた。できれば各地区から1名以上の女子選手が参加し、女子のレベルアップも図っていきたい。

「我々は選手の未来に触れている」

各チームでの指導や協力がなければトレセンは活動できません。地区トレセンの活動がなければブロックトレセンは活動できません。この年代は、強化および普及です。多くの選手にチャンスを与え刺激を入れていきたいと考えます。各地区、そして北海道のより一層のレベルアップのため、指導者一丸となってこれからも取り組んでいきましょう。ご協力いただいた十勝地区サッカー協会、及びその他関係者の皆様に深く感謝の意を表し、まとめといたします。